令和８年度　**1学年　授　業　改　善　推　進　プ　ラ　ン**　小平市立小平第一小学校

	課題；児童の実態・学習状況、指導の実態	**改善プラン**；課題改善の方針・具体的手立て
国　語	○物語の内容の読み取りにおいて、場面の様子や登場人物の行動を捉えることが苦手な児童がいる。	☆物語の内容に合わせて動作化したり登場人物の写真を掲示したりしながら内容理解につなげ、様子や行動を捉えやすくする。 ☆児童一人一人が物語を読んで気付いたことや分かったことについて、ペアやグループで意見交流する機会を増やし、読み取ったことを広げたり深めたりできるようにする。 ☆物語の本を紹介し合ったり、交換して読み合ったりする活動を確保し、物語への興味・関心を高めながら、物語文に触れる機会を増やしていく。
	○「は、へ、を」の助詞や小さい「や、ゆ、よ、つ」を文章の中で正しく表記する力を身に付ける必要がある。	☆家庭学習を含めて、日常的に短文づくりに取り組む機会を確保し、長音、拗音、促音、撥音の表記や助詞の使い方の指導を積み重ねていく。反復練習する中で定着を図る。
	○ひらがなを正しく書くことに個人差がある。また、言葉を音で捉え復唱しているだけで、まとまりとして捉えることが難しい。結果として、文章を流暢に読めるようにする必要がある。	☆全体指導では、文章の区切り方や語彙力を向上させるために、平仮名、カタカナ等の習熟の際に、新出語や名詞の意味を押さえ、「読む・書く・使う」の積み重ねを行う。また、文節で区切ってから読むことに取り組ませ、まとまりで捉える練習をさせる。個別指導として、個別に支援をしたり学習補助員を活用したりして、安心して授業に参加できるように努める。家庭と連携を取りながら基礎的な力を身に付けられるようにする。
算　数	○意欲的に取り組む児童が多いが、数の計算についての理解や技能の習熟差が大きい。	☆習熟が不十分な児童には補習授業を活用するとともに、一人一台端末の「タブレットドリル」を活用して反復練習ができるようにし、基礎的な力の定着を図る。 ☆計算カードを授業の導入時や家庭学習でフラッシュカードとして活用したり、友達と問題の出し合いをしたりできるようにする。
	○文章題の内容の読み取りから加法か減法かを判断し、正しく立式することができない児童がいる。	☆具体物を使用したり、絵やおはじきなどの半具体物を用いて表したりして、具体的な場面と対応させながら考えさせ、理解を深める。 ☆文章の読み取りに課題があって国語的な支援が必要な児童については問題を読み上げたり図で説明したりすることで、スモールステップで学習を指導する。
	○説明、表現する力に個人差が見られる。	☆児童相互で考えを説明し合う機会を設けたり、全体での発表の場を増やしたりして考えを発表することに慣れるよう指導する。
生活 ひろば	○植物の栽培・観察やものづくりなど、意欲的に活動に取り組むことはできているが、気付きを言語化したり、言葉にして振り返ったりすることが難しい児童がいる。 ○気付きの質の高まりに個人差がある。	☆ペアやグループ、クラス全体で意見交流をしたり話し合ったりする機会を意図的に設定し、友達の言葉をヒントにして自分の気付きを言語化できるようにする。 ☆国語の学習と関連させて、観察カードの書き方を指導することで詳しく書けるようにし、気付きの質を高める。 ☆時数を生かして、試行錯誤する機会を増やしていく。また、個々の試行錯誤について対話をする機会を設ける。
音　楽	○音楽に合わせて体を動かしたり、リズムをとったりすることが苦手な児童がいる。 ○鍵盤ハーモニカの学習において、基礎的な指使いやタンギングの技能に個人差がある。	☆歌ったり、踊ったりする活動やリズム遊びを繰り返し行うことで、一小節内で複数のリズムを打ち分ける力を身に付けさせる。また、活動を通して音楽の楽しさを味わえるように指導する。 ☆グループ学習をする機会を確保し、教え合いをしながら互いに技能を高められるようにする。補習の機会を通して、個別に指導・支援できる時間を確保する。
図　工	○作品づくりに関心・意欲をもって生き生きと楽しく取り組むことができるが、制作に関わる技能に個人差がある。 ○生活経験の有無や表現に個人差が大きく、イメージを表現しきれない児童もいる。	☆はさみの使い方に慣れたり、クレパスで楽しく色を塗ったりできるように、基礎学習を積み重ねる。また、自分の思いに合わせて児童自らが選択できるような教材を準備する。 ☆鑑賞の時間や作品を発表する時間を設ける。また、作品のイメージを授業の冒頭で共有したり、友達の作品を鑑賞したりすることにより、アイディアや表現の幅を広げられるようにする。
体　育	○ボールを操作する運動遊びにおいては個人差がある。 ○振り返りや話し合いの場面で、自分の考えを表現する活動を多く取り入れる必要がある。	☆様々な大きさのボールを使った運動遊びを取り入れ、ボールを投げたり捕ったりする感覚を身に付ける。 ☆教科を横断して、言語活動を充実させ、考えを伝えたり聞いたりする力を育てる。自分の言葉で伝えられない児童には、達成度を４段階（よくできた・できた・少しできた・あまりできなかった）から選ばせたり、自分に合う課題を選ばせたりして考えを表現することの定着を図る。
道　徳	○自分の考えを発表できなかったり、教材のめあてを捉えて自分の考えをもったりすることが難しい児童がいる。	☆ペアや少人数でのグループでの話し合い活動を取り入れ、友達の意見を聞いて自分の考えをもてるようにし、全体の場では考えが発表できない児童にも、発言する機会を保障する。 ☆児童の発言に対して教師が価値付けることで、考えや思いを伝えやすい学級の雰囲気づくりを行う。